年度 2009　学期 前期	曜日・校時　木・3	必修選択 選択	単位数　2
授業科目/(英語名)	生物の科学―薬から見た生命(いのち)― (Biological Sciences　Life and medicine)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 自然科学科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
担当教員:　尾崎　惠一　/Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:kozak@nagasaki-u.ac.jp　/研究室:薬学部 4F 細胞制御学　/TEL:　095-819-2418
/オフィスアワー:　午前中(質問受付時間)　メールでも対応

担当教員(オムニバス科目等)	小林　信之（感染分子薬学）　大脇　裕一（病院薬学）

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標

授業のねらい、到達目標:

1、 生命の設計図ともいうべき遺伝子 DNA の基本概念について具体例を挙げて講義し、それらを理解できるようにする。また、遺伝子とその表現型について学び、議論しあうことでそれらを説明できるようにする。
2、 RNA についての新しい機能や概念について学び、それらを理解することができるようにする。
3、 病気の原因となる遺伝子や病原体、そしてその病気に対する薬の作用機序に関する講義を視覚的に行い、それらの基礎知識を身につけるようにする。

授業方法:

プリントおよび液晶プロジェクターを用いたプレゼンテーションによる視覚的効果に重点をおいた講義をこころがける。
課題をあたえ、調査研究しグループ発表を行ってもらう。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

生命をつかさどる DNA や RNA から生命の本質を解き明かし、病原体や病気、そして様々な薬についての基礎知識までを薬学部教官 3 人が概説する。

小林担当)

第1回　生命の誕生
第2回　生物とはなにか
第3回　RNAワールド
第4回　目に見えない生物
第5回　ウイルス、ウイロイド、ウイロソイド、プリオン

尾崎担当)

第6回　遺伝情報と生命
第7回　日本人の遺伝子
第8回　病気と遺伝子 I
第9回　病気と遺伝子 II
第10回 課題発表会

大脇担当)

第11回 生体と薬 I
第12回 生体と薬 II
第13回 生体と薬 III
第14回 生体と薬 IV
第15回 生体と薬 V

キーワード	遺伝子　タンパク質　ウイルス　薬
教科書・教材・参考書	教材用のプリントを配布する。参考図書に関しては適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取り組み状況(40%)、プレゼンテーション(10%)、レポート試験(50%)により総合的に判断する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	